

平成30年度 学校評価（総括評価表）

重点課題	重点目標	評価指標	評 価		学校関係者評価 (学校関係者の意見)
			評価指標による達成度	自己評価	
◆子どもたちの個性や能力に応じた自発的な学びを促し、これからの社会を生きぬく力を身に付けさせる教育を推進する。	<中・高等部> ・卒業後に向けて、人との関わりの中で社会性やコミュニケーション能力を高め、QOLの向上をめざす。	・生徒主体の学部集会を年間7回以上実施する。 ・総合的な学習の時間に、実態に応じてグループや個人による中高合同の発表会を年間5回以上実施する。 ・校外へ出て、学校周辺の人と関わる学習を年間5回以上実施する。			(所見)
		活動計画 ・入学式や卒業式、また長期休業中の生活などに関する学部集会において、生徒が主体となって計画や進行を行う。 ・総合的な学習の時間に、個人またはグループで、進路学習（2回）、人権学習（1回）、防災学習（2回）、学習（1回）についての発表会を実施する。 ・総合的な学習の時間や実態別のグループ学習を通して戸外での散策や防災オリエンテーリング、買い物学習などを行い、年間を通して学校周辺の人と積極的に関わる活動を計画して実施する。	活動計画の実施状況		
		評価指標 ・一年間の様々な学校行事（運動会、学校祭、児童生徒会役員選挙等）において、計画、準備、運営等にあてる児童生徒会役員会の開催回数を増やすことにより、児童生徒が活発に意見を出す機会を確保し、児童生徒会役員がより主体的、積極的に行事に携わることで、これまで以上に児童生徒が活動の中心となる学校行事にする。その児童生徒会役員会の年間の開催目標回数を15回以上とする。	評価指標による達成度	自己評価	
	<特別活動課> ・児童生徒会役員の活動を活性化させることで、全ての児童生徒の自主的活動の推進につなげる。	活動計画 ・運動会や学校祭等の各行事において、事前準備を見通しを持って早めに進め、計画的に行うことで、時間的にゆとりを持ち、児童生徒の意見をじっくり聞きながら、充実した児童生徒会役員会が開催できるように努める。	活動計画の実施状況		
	<研究課> ・子どもたちの個性や能力に応じた実践を推進する。	評価指標 ・個別の指導計画を作成するにあたって、手だての欄に子どもたちの個性や能力に応じた合理的配慮等に関する記載が6割を超える。	評価指標による達成度	自己評価	

		<p align="center">活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画様式3における合理的配慮の手だてを個別の指導計画に生かすために特別支援教育課と合同で職員研修を行う。 ・合理的配慮についての共通理解を図るため、人権教育課及び特別支援教育課と連携をする。 ・教務課と連携し、ケース会等において、合理的配慮について確認する機会を設ける。 	<p align="center">活動計画の実施状況</p>	
<p><人権教育課> ・児童生徒の実態や興味関心に応じた学習活動を通して人権意識の向上を図る。</p>	<p align="center">評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回「人権月間」を設け、児童生徒の実態に応じて作成した作品を展示、公開する。実施後のアンケートにおいて、「人権意識が向上した」との回答を7割以上得る。 	<p align="center">評価指標による達成度</p>	<p align="center">自己評価</p>	
	<p align="center">活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県の人権月間である12月に「人権月間」を設ける。 ・各教科・領域において、人権に関する詩、作文及びポスターなど児童生徒の実態に応じて作成した作品を募集する。 ・募集した作品を「人権月間」に展示及び公開し、人権意識の向上と啓発活動を行う。 ・実施後、教職員と児童生徒に対して、「人権月間の取組」や「人権意識の向上」等についてアンケートを実施する。 	<p align="center">活動計画の実施状況</p>		
	<p align="center">評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画において、個性や能力に応じた自発的な学びを豊かにするためのICT教材や支援機器等に関する記載が6割を超えるようになる。 	<p align="center">評価指標による達成度</p>	<p align="center">自己評価。</p>	
<p><情報視聴覚課> ・個性や能力に応じた自発的な学びを豊かにするため、児童生徒のニーズに即したICT教材や支援機器等を活用する。</p>	<p align="center">活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部のケース会において、児童生徒の能力に応じたICT教材や支援機器等の活用に関する情報交換等を行う。 ・ICT教材や支援機器等の活用に関する研修会を実施する。 	<p align="center">活動計画の実施状況</p>		

平成30年度 学校評価（総括評価表）

重点課題	重点目標	評価指標	評価		学校関係者評価 (学校関係者の意見)
			評価指標による達成度	自己評価	
◆魅力ある学校、特色ある学校をめざし保護者や地域・関係機関との連携を深める。	<p><特別支援教育課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画様式3（実態把握表）において、「合理的配慮」の視点から支援の手立てを考え、保護者との連携を図る。 	<p>・「身体・健康面」「学習面」「社会生活面」において、合理的配慮の観点から支援の手立てを考え、作成することが各々7割以上できる。</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>自己評価</p>	(所見)
	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修において、様式3について全教員に共通理解を図る。 ・様式3の作成後、各学部のケース会で支援の手立て（合理的配慮）について確認していく。 ・懇談等で様式3について、保護者と確認をする。 	<p>活動計画の実施状況</p>			
	<p><教務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・とくしま教育の日に係る公開授業をとおして、保護者や地域・関係機関に対して理解啓発を図る。 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業の参加者にアンケートを取り、学校や授業の様子などがよくわかったとの回答を7割以上得ることができる。 	<p>評価指標による達成度</p>	<p>自己評価</p>	
	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の案内先に加え、ホームページに案内を載せたり、これまで案内していなかった放課後等デイサービスの事業者にも案内するようにして、少しでも多くの方に参加していただけるようにする。 	<p>活動計画の実施状況</p>			
	<p><小学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じた交流及び共同学習を計画的・継続的に実施することで、児童の経験領域の拡大や社会性の向上と、両校児童の相互理解を深める。 ・交流及び共同学習を実施している様子をホームページに掲載することで、社会に対して交流及び共同学習や本校についての理解・啓発を推進する。 	<p>評価指標</p> <p>[学校間交流]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて直接交流を年間4回、間接交流を年間1回以上実施する。 ・本校の教員が交流校において出前授業を年間1回実施する。その後の交流及び共同学習実施時の相手校児童へのアンケートで、「楽しく活動できた」「鴨島支援学校の友達のことがよくわかった」の回答がそれぞれ8割以上となる。 ・活動の様子等を年間5回小学部交流コーナーに掲示する。 <p>[居住地校交流]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流及び共同学習の実施にあたり、相手校と交流内容の検討を行い、計画的に年間3回以上実施する。 	<p>評価指標による達成度</p>		

[ホームページ]
・交流及び共同学習時の活動の様子等を、年間5回以上ホームページに掲載する。

活動計画

活動計画の実施状況

[学校間交流]
・両校の交流担当者間で連携を密にして計画的に実施する。1学期に3回、2学期に1回直接交流を、作品展やおたより等の間接交流を適宜実施する。

・5月に、交流担当者が相手校に出向いて授業をすることで、本校や小学部の児童についての理解を深める。その後で、本校の児童の興味関心や現状に応じた交流及び共同学習を行うことにより、お互いを意識したり理解し合ったりすることができるようにする。

・活動の様子や作品等をまとめ、学部の交流コーナーに掲示して校内に紹介する。また、運動会や学校祭等の行事では、地域や来場者への広報に活用する。

[居住地校交流]
・対象児童や保護者の希望を基に、相手校と交流及び共同学習を実施する行事や教科等や授業内容の検討を行い、計画案を作成して実施する。

[ホームページ]
・年間を通して、計画的に交流及び共同学習の様子をホームページに掲載して、社会に広報していく。